

2022年度 研究、教育、社会・学会活動報告書

1. 研究（本年度のみ）

ふりがな	こうさか ゆうき		職 位	准教授	学 位	博士（経済学）
教員氏名	高阪 勇毅					
アルファベット表記	Youki Kohsaka					
専門分野		ファイナンス・行動経済学				
研究課題	テーマ	新型コロナウイルス感染症と人間行動				
	概要	リスク認識と行動に関するアンケート調査を実施し、変容を分析				
本年度 研究業績	研究費	総額：987,620 円 内訳：個人研究費 220,000 円 / 科学研究費 767,620 円 そ の 他 円				
	研究テーマ	株式併合と株式流動性、新型コロナウイルス感染症と幸福度				
	経過と到達点	株式併合による流動性の改善の発見、COVID-19 拡大による幸福度の低下とその後の改善の発見				

（1）学術論文

	論文等の名称	発行年月 (西暦)	単・共著 の別	発表雑誌等	概要
①英文査読論文					
②和文査読論文					
③英文論文					
④和文論文					
⑤紀要論文					
⑥紀要研究ノート、専門誌記事等					
⑦学会での 口頭発表、討論者 (ディスカッサント)	Dealership versus Continuous Auction: Evidence from the JASDAQ Market	2022年5月	討論者	日本金融学会 2022年春季全国大会	学会討論

Disposition Effect and Reverse Stock Splits	2022年9月	単著	京都経済短期大学 経営・情報学会研究報告会	Disposition Effect (気質効果) と Reverse Stock Splits (株式併合) に関する研究を紹介
People in Japan were habituated to the COVID-19 pandemic	2022年10月	共著	日本経済学会 2022年度秋季大会	コロナ禍での日本人の新型コロナウイルス感染症に対する馴化を検証した研究。大竹 文雄 (大阪大学)、Tsutsui-Kimura Iku (ハーバード大学)、筒井 義郎 (京都文教大学) との共同研究

(2) 著書

	著書名	発行年月 (西暦)	発行所等の名称	概要
⑧共著書・共訳書	持続可能な社会に向けて	2023年3月	晃洋書房	「ESG 開示スコアとカスタマー・プレイヤーの関係」を寄稿。
⑨単著書・単訳書				

(3) 外部研究資金獲得 (競争的資金獲得)

	研究テーマ (代表研究者名)	期間年月 (西暦)	研究項目の名称 (文科省科研費等)	概要
⑩共同研究 (研究代表)				
⑪単独研究	売買単位集約を目的とした株式併合の増加と株価・流動性への影響	2019~2022	科学研究費 (若手研究)	売買単位集約を目的とした株式併合の増加と株価・流動性への影響
⑫共同研究 (分担研究)	巨大リスクにどのように立ち向かうか? イスラエルとの共同研究	2018~2022	国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B))	巨大リスクにどのように立ち向かうか? イスラエルとの共同研究
⑬科学研究助成事業 (日本学術振興会) 申請	応募			

2. 教 育 (本年度のみ)

担当科目		前 期	後 期
		科目名	科目名
担当科目	講義	金融論、ミクロ経済学、行動経済学	経済英書講読Ⅰ、編入対策特講Ⅰ
	演習	基礎ゼミ、ゼミナールⅡ、ゼミナール特別活動	ゼミナールⅠ、ゼミナールⅢ、ゼミナール特別活動
	実習		
教育内容・方法 の工夫	◆ 講義科目	金融論・ミクロ経済学・(穴埋め式レジュメの作成、Google フォームによる経済実験の実施、Google フォームによる授業時間外課題の作成・出題・回収、YouTube によるアーカイブ配信、YouTube による課題解説)	
		経済英書講読Ⅰ (Google フォームによる授業時間外課題の作成・出題・回収)	
	◆ 演習科目	Office365 共同編集機能を活用したグループワーク、Discord を利用した連絡体制の構築	
	実習科目		
	◆ その他 (教科書・教材等の作成を含む。)		

(1) 課外活動

①研修旅行 海外	
②研修旅行 国内	

3. 社会・学会活動（本年度のみ）

(1) 公的委員会

分 類	活動・講演の概要
①委員長・座長 国・国際機関	
②委員長・座長 上記以外	
③委員・アドバイザー 国・国際機関	
④委員・アドバイザー 上記以外	

(2) 学術団体の理事（日本学術会議協力学術研究団体）

分 類	活動・講演の概要
⑤理事長・会長	
⑥理事	

(3) 講演会

分 類	活動・講演の概要
⑦ 講演者・登壇者・ 学会座長	<ol style="list-style-type: none"> 1. Monetary Economics Workshop 「People in Japan were habituated to COVID-19」, 2022年4月16日(土), コロナ禍での日本人の馴化に関する研究を報告 2. 行動経済学ゆるゆる配信 「山口先生と考えよう! 「気質効果」のニューネーム」 (2022年9月16日(金)) 山口勝業(早稲田大学・イボットソン・アソシエイツ・ジャパン)・山根承子(パパラカ研究所)と登壇 https://www.youtube.com/watch?v=LDK0SZ-aDoI

4. 特記事項（本年度のみ）

<ul style="list-style-type: none"> ・行動経済学会 若手ワーキンググループ ・Pacific-Basin Finance Journal 査読者 ・情報処理学会 Journal of Information Processing 査読者
--